

第1学年3組 国語科学習指導案

1. 単元名 「こえにだして きもちをこめてよもう」

教材名：「かえるのびよん」谷川 俊太郎

「はやくちことばのうた」藤田 圭雄

2. 単元目標

言葉を大切にして詩を鑑賞し、イメージしたことが表れるように工夫して声に出して読むことができる。

- ・詩の楽しさを味わい、声に出して読もうとしている。(関)
- ・短い言葉に凝縮された言葉の意味を考え、想像している。(読)
- ・言葉の持つ意味に合う読み方を考えている。(読)
- ・想像したことが伝わるような読み方になるように声を出して読んでいる。(表)
- ・丁寧なわかりやすい言葉を使って話している。(言)

3. 「ひびき合う子どもたち」を目指すための指導の工夫

(1) 研究テーマと本実践の目指す児童像

① 【詩に対するイメージを広げる】

出会った詩に対するイメージが、はじめに持っていたものより広がる。

② 【表現方法を吟味し合う】

イメージしたものをどのような表現にしていこうかという表現方法を友達と声に出しながら吟味し合う。

③ 【言葉の持つ楽しさを持つ】

友達と声を出し合うことで、音読(詩)に親しみを感じ、友達と高める楽しさを味わう。

(2) 単元と指導について

本単元は、学習指導要領

「C 読むこと」の内容(1)のエ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと
--

に基づく。

① 【詩に対するイメージを広げる】について

詩(短い物語)に出合った時、子ども達は様々な場面を想像するであろう。それには誰一人としてまったく同じ想像はない。似てはいてもどこかしら違っているはずである。そこで、作品に出合った時一番印象に残った言葉に対する感想や絵などを一人一人記録に残したり、動作化をして言葉に着目させたりする。それを用いて友達と情報交換し、自分の持っていたイメージと比較させ、新たに付け加えたり、変えてみたりさせたい。

② 【表現方法を吟味し合う】について

声の出し方には、たくさんの方がある。それらを教科書教材として載っている「かえるのびよん」の群読CDを聴いて子どもたちに発見させることで学ばせていきたい。子どもたちに知ってもらいたい表現が出てこないときは、教師から提示していくことも必要としていく。

<表現させていきたい技法>

- ・ 踊導(一人読み→大勢読み)
- ・ 漸増(だんだん大きく)

- ・ 漸減（だんだん小さく）
- ・ 追いか
- ・ 転調（明るく→暗く　　小さく→大きく　等）
- ・ バックグラウンド（主になる言葉の裏でキーワードを唱える）
- ・ ソロとアンサンブル

これらを使い、人数や声の大きさなどの工夫で、想像した言葉に合った表現であるかどうかを子どもと吟味しながらつくっていききたい。

③ 【言葉の持つ楽しさを持つ】について

声に出して一人で作品を読むのも大切であるが、友達と読むことで一人とは違った表現になる楽しさを味わってほしい。それには、息を合わせたり、読むタイミングを考えて声を出したりすることが必要とされる。はじめはうまく読むことができないことがあると思うが、それがどうしてなのかを子どもたち自身で考え、解決していくことが大切である。その際、教師の考えをすぐに言うのではなく、テープやビデオなどの視聴覚機器を使って振り返らせ、表現したことがどのような実態であるかを確認し、じっくり話し合う時間を確保していききたい。また、体を動かすことが大好きな年齢である。動作化は、言葉の意味を考える上でも大切な表現方法である。声と体を使って楽しく読ませていききたい。

④ 「はやくちことば」の教材分析と指導について

<教材分析>

この詩には、早口言葉が3種類出てくる。早口言葉を生かすために早口言葉に到達するまでの言葉はゆっくりと読みだし、緩急をつけたい。また、2つめの早口言葉は「れんしゅうちゅうだよ」という言葉を見つけ、わざと間違えて読むことも考えられる。動作化できそうな言葉もたくさんある。「おやゆびしっかにぎりしめ」や「ふたりでなかよくしゃべろうよ」、「イエーッ」など言葉に着目し、動作に移したり、抑揚をつけたりできるとよい。

友達を感じ方を知り、「そうかも」「いや、ちがう」「どうだろう」と自分の考えを持ち、表現できるとよい。

<用いて欲しい技法>

- 動作化
- 転調（ゆっくり→はやく）
- 転調（大きく、力強く）
- 漸増
- 乱れ読み

<イメージを持たせるための補助指導>

①書き込みカード（一人読み）

分からない言葉などを書き込んでいく。そこから想像しやすい表現になるかもしれない。

自分の考えを持つためにメモを取って使いたい。

②動作化

動作が伴うような言葉がたくさんある。動作によっては、言葉を長く伸ばしたり、もっとたくさん増やしたりすることも考えられる。イメージによって言葉を変化させることも可能であると伝えておきたい。

4. 指導計画（全4時間扱い）

①	第1次	目標：音読にはいろいろな方法があることを知り、友達と声を出して読む楽しさを味わう。 （教材「かえるのびよん」）
---	-----	--

	<p>活動：様々な技法を使って声に出して読み、一斉読みと比較しながらどのような表現になるのかを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの技法の持つ効果について確認する。
第2次 ③	<p>目標：想像豊かに詩を読み、それをいろいろな技法で声に出していく。 (教材「はやくちことばのうた」)</p> <p>活動：①短い言葉のもつ意味を考えながら、場面を想像する。</p> <p>詩と出会う。</p> <p>言葉の意味を理解し、読みのアクセントなどを決める。</p> <p>読み方を言葉の意味から考えたり、動作から考えたりして自分の考えを持つ。</p> <p>①自分の考えをもとに話し合い、より想像を広げる。</p> <p>自分のもっていた考えと比較し、さらに想像を広げる。</p> <p>①詩のイメージに合うような読み方を考える (本時)</p> <p>それぞれの意見をもとに、それに合う技法を考え、実際声に出したり体を動かしたりしながら表現を仕上げていく。</p> <p>●生活発表会で披露する。(時数は別)</p>

5. 本時 (第2次 3 / 3時間)

(1) 本時の目標

鑑賞した詩のイメージに合うようにするためには、どのような方法で声に出して読んだらいいかを話し合い、工夫していく。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の支援・留意点・評価 (◇)
<p>○「はやくちことばのうた」を一斉読みする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「はやくちことばのうた」をどのように読めばいいか考えよう。</p> </div> <p>○どんな読み方にすればいいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おやゆびしっかりとにぎりしめ」を言葉を動きにしたい。 早口言葉を速く言いたい。 早口言葉を元気よく言いたい。 早口言葉を声の足し算 (漸増) で言いたい。 「イエーッ」を跳びたい。 「おへそにちからをいれるのさ」力強く言いたい。 「みてたの」「きいてたの」を言葉を動きにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり想像するように読むようにする。 普通に読んだときを録音しておく。 <ul style="list-style-type: none"> どの言葉からどのような場面が想像できたのかを確認する。 <p>◇言葉に着目し、創造した場面に合う読み方を考えて発言している。(読)</p> <p>◇みんなで考えた技法の読み方で生き生きと読んでいる。(表)</p>

<p>○決まった読み方で読んでみよう。</p>	<p>・録音しておき、はじめの読み方と比べさせ、工夫のある読み方のよさや楽しさを確認させる。</p>
-------------------------	--

(3) 本時の視点

- どのような技法を用いたらよいかを話し合う場面で、子どもたちの関わりが見られたか。
- 子どもたちが選んだ技法は、鑑賞した詩に合うものであったか。
- 技法を加えた表現で読むことで、さらに詩への思いや想像を広げることができたか。

6. 実践を終えて

・成果

単元目標に加えて、声を合わせて表現する喜び、表現の技法を習得し活用する喜びを大切に指導をしてきた。実際児童が多く使った技法は、動作化が最も多かった。その中で、どのような動作にすればこの詩にあった読み方ができるのかを相談する姿が見られてよかった。動作を考える際に、まずは個人の考えを持つようにした。それから、全体の場で話し合うことでたくさんの意見を聞き、「同じ考えだ。」「いいや、違うだろう。」「○○な考え方もあるんだ。」などイメージを広げることにつながったと考える。

また他教材でも、動作化をして読んだり抑揚をつけて読んでみたりと、読みの幅が広がったこともよかった。

・課題

一人読みをもっと充実したほうが良かった。何度も声に出して読んでみることで自信を持ったり、大きな声で読んだりできたかもしれない。

詩を読み深めるときに、『言葉』を「どう読むのか」をもっとしっかり理由付けをさせたかった。自分の意見をもてない児童や周りの意見に流される児童もいたので、「誰が言っているのか」「どんな様子なのか」「そのときの気持は」などスモールステップで進めた方が話し合いに参加しやすかったのではないかと考える。

多数の意見で読みを決定していかないように全員が考えを持つこと、それによって『言葉』にかえり意見を交換することで学級として1つの形に完成すると考える。